

# 国際学院新聞

第59号  
(編集発行)  
学校法人 国際学院  
〒330-8548  
さいたま市大宮区吉敷町2-5  
TEL 048 (641) 7468  
FAX 048 (641) 7432  
インターネットホームページアドレス  
http://www.kgef.ac.jp/

## 主なニュース

- 論説、産学官で食育推進、公開講座開講 …… 2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 …… 3面
- 夏季進学合宿、部活動報告 …… 4面
- インドネシアから来校・留学生の紹介 …… 5面
- 体育大会・体育祭、研修旅行、五峯祭 …… 6面
- 学友会・生徒会活動、フランス料理講習会 …… 7面
- 同窓会活動、後援会総会、ベストブック …… 8面

# KGブランドの確立に向けて

## 「経営基盤安定強化計画」がスタート 質保証を目指した教育改革を推進



活字を授業風景に活用。プロジェクターを用いた授業風景。黒板に投影された画像と電子黒板機能付きプロジェクターの授業風景。

本学院では、少子化の進行や教育に対する社会のニーズが多様化する中、KGブランドの確立を目指すべく、学院創立50周年に際して策定した「国際学院中期ビジョン」の考えに立ち、本年3月、「経営基盤安定強化計画」を策定しスタートさせた。本計画の特色は、経営基盤の質保証と教育研究の質保証を2つの戦略に掲げ、その下に6つの基本目標と個別目標を設定。今後5か年の計画であるが、中学校高等学校や短期大学では、可能な限り前倒して計画を進めようと積極的な取り組みを進めている。

「英語の国際学院」、「教育力向上」、「KOKUSAI Method」、「ユニスコスクール活動」の4つの柱の下、教育の質向上プロジェクトを進めている。学習習慣の定着化を図るため基礎学力の徹底錬成や英検をはじめとする英語学習の取り組み、ユニスコスクール活動の1環として海外教育提携校との連携・交流や生徒の海外派遣などに積極的に取り組んでいる。特に、来年11月には、ユニスコスクール加盟校同士の交流を目的とする「インターナショナル・フレンドシップ・ウィーク（I・F・W）」のホスト校を日本ですべて本校が務めることとなり、既に、その準備に着手している。

一方、短期大学では、本年3月、アクティブ・ラーニングと反転授業の教育手法を積極的に取り入れるための学修環境の整備を行った。従来の、講義中心の授業から、学生たちの「能動的」授業へ転換を図るとともに、事前にビデオ等により予習することで、授業では教員が個々の学生の学修状況に応じた細かな指導を行うことができるもので、本学の目指す「人づくり教育」や「確かな専門力」をさらに伸ばすことが可能となる。実習、実験、実技等の授業向けに、第3調理実習室、第3実験室、リズム教室で、電子黒板機能付きプロジェクター、マイク設備、授業支援システム等の整備を図り、4月から早速授業に導入。「授業に積極的に参加できる」、「細かい動きなどが分かりやすく、理解が進む」など学生の評価も上々だ。今後、両キャンパスにおいて、質保証への取り組みの加速が期待される。

進むキャンパスリニューアル  
伊奈キャンパスでは、本年3月の新校舎竣工に続き、4月から本館の空調改修、屋上の防水工事、陸上トラック整備などの整備を順次進めている。このうち、空調改修は、本格的な暑さを迎える前の完成を目指し、7月には工事が終了。また、陸上トラックも一部全天候型舗装や夜間照明の強化を行い、練習環境が大きく向上した。今後、テニスコート整備なども予定している。



リニューアルした陸上トラック

### インターハイ準優勝 5年ぶり入賞、過去最高の順位

陸上競技部は、7月29日から岡山県シテイライトスタジアムで開催された全国高等学校総合体育大会に出場を果たし7年連続出場となった。出場種目は、女子100m、100mハードルに田中陽夏莉さん、女子4×100mリレーに天川黎子さん、田中陽夏莉さん、矢部雅尋さん、新井美鈴さん、男子走幅跳に平流成君、最終日の女子100mハ



チームとしての取り組みの成果を出した陸上部

ードルでは、田中陽夏莉さんが、予選を1着で通過し、準決勝では、自己ベスト記録となる13秒85をマークし1着で決勝進出を果たした。決勝の舞台でも、今年最高のレースを見せ、13秒64と自己記録を更新し準優勝を果たした。目標である優勝には後一歩届かなかったが、5年ぶりとなる全国高校総体入賞を果たし、過去最高の順位となった。

この経験を活かし、新チームは翌年の山形インターハイを目指しスタートを切っている。



講演会講師の宮崎学氏

### 学院創立記念行事開く 12月6日 式典と講演会

本学院では学院創立記念行事の取り組みを行っている。この目的は、本学院の学生生徒と教職員の協働による創立記念行事の取り組みを通して、学院の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものであり、毎年12月に実施されている。

平成28年度は12月6日、短期大学・中学校高等学校の学生生徒・保護者、学院役員、名誉教授、客員教授、非常勤講師、同窓会役員、後援会役員、教職員などの学院関係者が参加して大宮

ソニックシティ大ホールを会場に「国際学院創立記念式・講演会」として行われる。第1部は本学院創設者である大野誠理事長の講話と短期大学・中学校高等学校の大野博之学長・校長からの講話、そして代表学生生徒による各校の活動報告、校歌斉唱などが行われる。第2部では、自然界の報道写真家として活躍されている宮崎学氏から「自然から今のメッセージ」と題して現在社会の環境問題をスライド上映を交えながら写真家としての苦労やエピソード、さらには「人づくり」の視点から、進路のことなどについて記念講演が行われる予定となっている。

### 介護食士講習会 県内で唯一開講

今年度も、短期大学において介護食士3級認定講習会を開催している。

これまで111名が資格取得

介護食士とは内閣総理大臣認定の資格であり、公益社団法人・全国調理職業訓練協会が介護に携わる人材の調理技術向上を目的に設けた認定資格制度で、埼玉県内では本学が唯一の講習会実施施設となっている。

平成22年度から開講しこれまでに111名が3級の資格を取得している。

今年度は、9月9日から翌年の2月25日までの全13回・72時間の講習を行い、調理理論、調理実習を始め医学的基礎知識、食品衛生学、栄養学、食品学、高齢者心理、介護食概論等を学ぶ内容としている。

受講者は、介護食品の製造メーカーの関係者をはじめ、専業主婦や健康栄養学科の学生等、県内のみでなく近県からの受講者もいる。

特に、調理実習は毎回実施し、咀嚼困難、嚥下障害者のための調理を学ぶとともに、既成食品や冷凍食品の上手な利用方法、市販介護補助製品の紹介等、その内容は多岐にわたっている。

野菜や肉、魚の切り方からだし汁の取り方、イタリア料理を用いたテクニクや、スイーツを使用して栄養を補う方法など、様々な分野の料理を介護に活用する方法を学べるのが、調理師養成施設である本学講習会の特色となっている。

受講生からは、「すぐに実践できる事が多く学べる」、「知っていたようで知らなかった介護の知識や高齢者心理等を知る事ができた」などの感想が寄せられ、講習会に対する高評価を頂いている。

リアル工事を実施。「学校が明るくなった。」「とてもうれしい。」などの声が聞こえる。今後とも、学生の声を聴きながら計画的に教育環境整備を推進していく。

KGブランドの確立に向けて  
本学院は開学以来、建学の精神に基づいた人材の育成を進めてきた。社会が大きく変化し、また、生徒や保護者、企業や行政などのニーズも時代とともに変化している。そうした変化を確実に捉えながら、今後、教育研究の質保証とその基盤となる学校経営基盤の質保証を推進していくことが、本学院の目指すKGブランドの確立に繋がるものと考えられる。

伊奈キャンパス本館の前に平成15年に植樹された一本の木がある。木の名は、楷の木である。

この楷の木は、「楷」あるいは「楷樹」とも表し、学問の木と紹介する文献もある。県内では、旧制高校の跡地や図書館などの施設にも植樹されている。

正に教育の場に相応しいこの木に、私は特別の感慨を持っている。30年ほど前のことであるが、この楷の木の来歴の調査に関わったことがある。学問の木とされるこの楷の木は、孔子の墓に植えたとの説があり、大正4年に農商務省の白沢保美(やすみ)林学博士が中国に出張した際、山東省曲阜の孔子廟から種子を持ち帰り林業試験場で育てたことが国内での楷の木の始まりであるとされている。▼確認を得るため日参した林野庁の資料室で白沢博士の当時の報告書を探し出し、「楷(称スルモノ)」を持ち帰った記録を発見したときは、資料室の司書が我が事のように喜んでくれた。▼林業試験場で育苗した楷の木は、足利学校、湯島聖堂、岡山県備前市の閑谷学校、佐賀県多久市の多久聖廟等で観ることが出来る。いずれも学問と縁が深い。因みに、当時訪れた閑谷学校の楷2本は鮮やか紅葉し、実に見応えがあった。▼ところで、この調査では一つ宿題が残された。この木が「楷書」の語源ではないかとの疑問である。爾来30年、未だ宿題の答えは書けていない。「学成り難し」である。

伊奈キャンパス本館の前に平成15年に植樹された一本の木がある。木の名は、楷の木である。

この楷の木は、「楷」あるいは「楷樹」とも表し、学問の木と紹介する文献もある。県内では、旧制高校の跡地や図書館などの施設にも植樹されている。

正に教育の場に相応しいこの木に、私は特別の感慨を持っている。30年ほど前のことであるが、この楷の木の来歴の調査に関わったことがある。学問の木とされるこの楷の木は、孔子の墓に植えたとの説があり、大正4年に農商務省の白沢保美(やすみ)林学博士が中国に出張した際、山東省曲阜の孔子廟から種子を持ち帰り林業試験場で育てたことが国内での楷の木の始まりであるとされている。▼確認を得るため日参した林野庁の資料室で白沢博士の当時の報告書を探し出し、「楷(称スルモノ)」を持ち帰った記録を発見したときは、資料室の司書が我が事のように喜んでくれた。▼林業試験場で育苗した楷の木は、足利学校、湯島聖堂、岡山県備前市の閑谷学校、佐賀県多久市の多久聖廟等で観ることが出来る。いずれも学問と縁が深い。因みに、当時訪れた閑谷学校の楷2本は鮮やか紅葉し、実に見応えがあった。▼ところで、この調査では一つ宿題が残された。この木が「楷書」の語源ではないかとの疑問である。爾来30年、未だ宿題の答えは書けていない。「学成り難し」である。

伊奈キャンパス本館の前に平成15年に植樹された一本の木がある。木の名は、楷の木である。

この楷の木は、「楷」あるいは「楷樹」とも表し、学問の木と紹介する文献もある。県内では、旧制高校の跡地や図書館などの施設にも植樹されている。

正に教育の場に相応しいこの木に、私は特別の感慨を持っている。30年ほど前のことであるが、この楷の木の来歴の調査に関わったことがある。学問の木とされるこの楷の木は、孔子の墓に植えたとの説があり、大正4年に農商務省の白沢保美(やすみ)林学博士が中国に出張した際、山東省曲阜の孔子廟から種子を持ち帰り林業試験場で育てたことが国内での楷の木の始まりであるとされている。▼確認を得るため日参した林野庁の資料室で白沢博士の当時の報告書を探し出し、「楷(称スルモノ)」を持ち帰った記録を発見したときは、資料室の司書が我が事のように喜んでくれた。▼林業試験場で育苗した楷の木は、足利学校、湯島聖堂、岡山県備前市の閑谷学校、佐賀県多久市の多久聖廟等で観ることが出来る。いずれも学問と縁が深い。因みに、当時訪れた閑谷学校の楷2本は鮮やか紅葉し、実に見応えがあった。▼ところで、この調査では一つ宿題が残された。この木が「楷書」の語源ではないかとの疑問である。爾来30年、未だ宿題の答えは書けていない。「学成り難し」である。

# 産学連携で「食育」のさらなる目標

## 文科省委託「中核人材事業」 平成29年1月31日 食育公開フォーラム開催

短期大学が平成26年から取り組んでいる「産学協働による認定食育士制度の構築及び実践」プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）は、文科科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業に採択されている。

大野学長を代表として洪川祥子横浜国立大学名誉教授をはじめ12機関18名の構成員からなるプロジェクトは、「プロジェクト検討部会」、「プログラム評価部会」、「認定制度検討部会」の三つの部会を設置して、食育を実践できる人材を養成することを目的とした教育プログラムの開発を目指している。

「認定食育士」とは、「一般住民や食関連・その他の企業勤務者に対し、地域における食育を推進する中核」として、その知識・技術を持ち合わせ、食育を実践できる人材である」と、プロジェクトで定義している。

開発するプログラムにより「食物栄養、生産・流通経済、循環社会、伝統的な食文化などに関する幅広い知識を基盤に、食を学び、

大野学長を代表として洪川祥子横浜国立大学名誉教授をはじめ12機関18名の構成員からなるプロジェクトは、「プロジェクト検討部会」、「プログラム評価部会」、「認定制度検討部会」の三つの部会を設置して、食育を実践できる人材を養成することを目的とした教育プログラムの開発を目指している。

「認定食育士」とは、「一般住民や食関連・その他の企業勤務者に対し、地域における食育を推進する中核」として、その知識・技術を持ち合わせ、食育を実践できる人材である」と、プロジェクトで定義している。

開発するプログラムにより「食物栄養、生産・流通経済、循環社会、伝統的な食文化などに関する幅広い知識を基盤に、食を学び、

### 論説



初等中等教育における教育課程の基準等における方について諮問された中央教育審議会（平成26年11月20日）の諮問文の中に「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる学習・指導方法が取り上げられている。アクティブ・ラーニングとは、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習である（文部科学省）。大学のみならず、小・中・高等学校でも協働的に学ぶ教授・学習方法が注目され

国際学院埼玉短期大学では、すでに、特色あるカリキュラムであるテュートリアル教育（少人数で学生が主体となって問題解決を進める学習）に加え、講義集録にArgs View、学習支援システムにRainaとといった最先端の機器が先導的に導入され、授業の中で活用されている。国が進めている新しい教育の目玉の一つであるアクティブ・ラーニングと呼ばれる学

修への対応が進んでいる。一方で、認知科学研究では、「蝸壺モデル」と呼ばれるものがある。課題がグループに示されても、特定の個人が問題解決をしているのみで、他の個人は何もせずに、じっと蝸壺の中で解がでる。修への対応が進んでいる。一方で、認知科学研究では、「蝸壺モデル」と呼ばれるものがある。課題がグループに示されても、特定の個人が問題解決をしているのみで、他の個人は何もせずに、じっと蝸壺の中で解がでる。

## 協働する力で21世紀を生きる

の待つというところである。単独で問題を解くより、仲間と問題を解くほうが、説明活動にかかわる頻度が高くなり、グループの創造性を誘発する効果があることが明らか

「認定食育士」取得者は、地域の食育活動、保育・教育機関での食育教育、食関連企業の企画、社員の健康増進対策等、社会の様々な分野で活躍することが期待される。

プロジェクトでは平成27年度までにモデルカリキュラムと基本教材を作成し、平成28年度はこれらの有効性の検証及びブラッシュアップを行うための取り組みを進めている。

「人づくりを科学する」を共通テーマに平成28年度は、さいたま市や大学コンソーシアムさいたま等と連携した講座を7講座、全18

「認定食育士」とは、「一般住民や食関連・その他の企業勤務者に対し、地域における食育を推進する中核」として、その知識・技術を持ち合わせ、食育を実践できる人材である」と、プロジェクトで定義している。

開発するプログラムにより「食物栄養、生産・流通経済、循環社会、伝統的な食文化などに関する幅広い知識を基盤に、食を学び、

「認定食育士」とは、「一般住民や食関連・その他の企業勤務者に対し、地域における食育を推進する中核」として、その知識・技術を持ち合わせ、食育を実践できる人材である」と、プロジェクトで定義している。

開発するプログラムにより「食物栄養、生産・流通経済、循環社会、伝統的な食文化などに関する幅広い知識を基盤に、食を学び、



「家庭で作れる健康料理」講座を終えて

地域に根づいた取組となっている。

「認定食育士」とは、「一般住民や食関連・その他の企業勤務者に対し、地域における食育を推進する中核」として、その知識・技術を持ち合わせ、食育を実践できる人材である」と、プロジェクトで定義している。

開発するプログラムにより「食物栄養、生産・流通経済、循環社会、伝統的な食文化などに関する幅広い知識を基盤に、食を学び、



学校開放講座（製菓）

おさかなマイスターの鈴木たね子本学客員教授や「世界で一番受けたい授業」等でお馴染みの洪川祥子横浜国立大学名誉教授をはじめとして、彩の国工名の楠木富男先生や成田義春先生等に務めていただいている。

参加者は延べ340人で、中には毎年参加される方も多数あり、年度初めには開催時期や内容の問い合わせが公開講座を担当する地域連携センターに頻りにあるなど、

## 2年生保護者対象キャリア説明会 就職に向け学校と家庭連携 担任との懇談会も開催

短大は例年高い進路実績を上げている。平成27年度も専門職への就職率は、短期大学幼児保育学科95%、健康栄養学科94%と高い水準を誇っている。

しかし、この高い就職率も、決して一朝一夕であげられるものではなく、創立50年を超える学院の伝統に基づくものや、卒業生たちによる社会での活躍のお蔭であると考えられる。

短大では、就職活動における学校と家庭との共通理解と連携を深め、学生のキャリア形成の向上を目的に、平成25年度より、保護者対象のキャリア説明会を

## 中学校・高等学校の取組

地域開放事業として伊奈町教育委員会主催の「伊奈町学校開放講座」学んで広がる「夢空間」の中で「料理教室」の講座を開講した。学校開放講座として

## 短期大学教授・学長補佐 中学校高等学校学事顧問 清水 誠

今年で23回目を数える。平成28年度は、地域の食生活をより豊かなものとすることをテーマに、全3日間で製菓、西洋料理、中国料理を学ぶ内容で実施した。

料理は、オーソドックスなメニューや日常の献立をアレンジしたもので、製菓では「モンブラン」、西洋料理では「アクアパッツア」、中国料理では「中華風の炊き込みご飯」など手軽にできるものを選択し、料理のポイントやひと手間を分かりやすく解説した。

本講座でもリピーターが多く、調理実習も余裕をもって行うことができ、講師や補助生徒と和やかな雰囲気の中でコミュニケーションを楽しみながら調理を進めていた。

受講者からは、「毎年参加しているがどのメニューもおいしくいただくことができ、楽しみにしている」「補助の生徒さんができばさとして助かりました」「家庭でも作れそうなので良かった」等の声を聞くことができた。

生徒にとっても講座の補助として関わることや受講者とのコミュニケーションを図ることができ、社会性を学ぶ良い機会となっている。「これからも、生徒とともに地域開放事業に力を注ぎ、受講者の満足度向上に向けて検討を重ねたい」と担当者は語っている。

学校開放講座は他にも、「陸上競技教室」や「サッカー教室」も予定している。現在、短期大学、中学校高等学校とともに今後の公開講座の充実に向けて受講者からのアンケート結果をもとに改善・改革等の検討を進めている。

# 第31回 幼児絵画展開催



94園・所から  
887点の応募

国際学院埼玉短期大学では、地域の幼児教育の振興や食生活の改善と地産地消の推進を目指し、幼児絵画展と味彩コンテストを毎年開催している。本年度も地域の皆様から多数の作品の応募があり、地域に根ざした短大の特色ある取り組みとなっている。

幼児絵画展は、本学の大学祭である「五峯祭」に合わせて実施され、11月5日、6日に盛會裏に開催された。幼児絵画展は、昭和61年に第1回を開催して以来、今年で31回の開催となった。本絵画展は、埼玉県内の幼稚園や保育所、こども園等に通っている年少児から年長児までの子どもたちを対象とし、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的として開催している。開催の回数が増えることに関心をもったばかりの機会も増え、今年度は94園・(所)から887点の応募があり、昨年と比較しても応募園数は13園・(所)増え、出品数も100点以上増加した。

10月12日(水)に行われた審査会では、大野誠特別審査委員長を中心に、学外の先生方、並びに学内の審査委員を合わせて12名の審査委員が、すべての作品を厳正に審査した。「こがよし」(個性が溢れているか・心がもっているか・画面のつばいに描かれているか・焦点がはつきりしているか・焦点を観点とし、とくに優れた作品には、学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。

展覧会と同日に開催された表彰式には、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。子ども達は慣れない雰囲気にも緊張した表情も見せたが、賞状を受け取り、保護者のもとに戻るとともに嬉しそうに笑顔を見せた。また、学生にとっても、多くの作品を観ることは、表現活動に興味をもち、個々の表現の違いにも気づくことができると大きな学びの機会となった。

教育実習を終えて  
言葉掛けや関わり方工夫  
幼児保育学科2年C組  
福田 愛華



葵寮から実家のある東北へ帰省し、3週間の教育実習を無事終えることが出来ました。今回の3週間の実習では、子どもたちと関わりながらどのように園生活を楽しく工夫したり、行事を通して活動に期待を持てるような言葉掛けをしたり、とても貴重な実習になりました。

保育実習を終えて  
自信に繋がった実習  
幼児保育学科2年A組  
木村 美優



私が保育実習でお世話になった実習園は、子どもたち一人ひとりの個性を大切に、温かい笑顔と心で子どもたちに接する先生方、思いやりの心を持ち、過剰しやさい環境の中、のびのびと育っている子どもたち、のびのびと育っている保育園でした。乳児クラスでは、身の回りの危険に目を配らなければいけないこと、愛着を形成していくために保育者と触れ合いがなによりも大切であることを学び、幼児ク

ラスでは、子どもたち一人ひとりの関わりを大切にすることや、子どもたちの興味を引き出す難しさなど責任実習も含め、たくさん学ばせていただきました。全ての実習を終え、私は今、保育士という職業にとっても誇りを持っています。実習をさせていただいた保育園に就職も決まり、より一層素敵な保育士になるための学びを深めていきたいと思っています。春からは笑顔を決意し、子どもたちと共に成長し続けることのできる保育士を目指して頑張りたいです。

障害者支援施設実習を終えて  
利用者へ添った支援学ぼう  
幼児保育学科2年B組  
石井 宏明



私は、保育実習Ⅲを選択し、最終保育実習を障害者支援施設にて実習させて頂きました。これまで、障害者の方と関わる機会は少なく、最初は非常に緊張しましたが、障害者の方の思いや感情をどのように汲み取り、私の気持ちや思いをどのように伝えればよいのかということを実習で学ぶことができました。さらに、利用者お一人おひとりに寄り添った支援を展開している職員の方を観察す

ることで、障害の内容や特性、どのような目標を持って施設で生活しているのかを知ることが繋がり、一人ひとりにあった支援の展開の重要性に気づくことができました。責任実習として、利用者の方々の前で手品を行った際は、皆さんが楽しんでくださった姿が見られ、とても嬉しかったです。

私は大学への編入学が決まっています。これからさらに学びを深め、保護者の方々が抱えている子育てに対する不安や悩みを少しでも解消できるように頑張ります。

施設実習を振り返って  
実習のホテルから内定  
健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組  
橋本 華子



私は平成28年2月1日から2月15日の期間、日本ホテル株式会社、ホテルメトロポリタンの宴会洋食調理の厨房で実習をさせて頂きました。主に野菜等の切り込みや、料理の盛り込みを行いました。主に野菜等の切り込みや、料理の盛り込みを行いました。主に野菜等の切り込みや、料理の盛り込みを行いました。

私は、この時の経験から、職場の雰囲気や自分に合っているか、実習先であるこのホテルの採用試験を受験し、内定を頂くことが出来ました。残りの学生生活では「周りをよく見て行動すること」「包丁技術の向上」を目標に学んでいきたいと思っています。

ご指導頂いたホテルメトロポリタン池袋のスタッフの皆様、就職活動にお力添え頂いた先生方に感謝申し上げます。

笑顔で接し児童と仲良く  
健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組  
西山 千春



私は9月12日から一週間、母校のさいたま市立指扇小学校で栄養教諭の教育実習を行いました。この実習を通して、大変多くのことを学ぶことができました。短い実習期間ながらも児童の名前を早く覚え、常に笑顔で接するように心がけたため、すぐに児童と打ち解けることができ、毎日充実した日々を送ることができました。

また、先生方の授業を見学させていただき、授業の進め方や授業内容での児童との接し方など、とても勉強になりました。研究授業では、小学校の先生方から事前に頂いたアドバイスを参考に、授業の進め方をまとめたノートを作成しました。児童が授業に積極的に参加してくれたので、極度に緊張することがありませんでした。

今回の教育実習では、とても貴重な経験をすることができました。実習で経験したことを活かせるように、今後とも日々努力していきたいと思っています。

## 一般・高校生の2部門で実施

### 食生活の改善や地産地消を目的

平成28年7月16日(土)に、第24回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉



## 第24回 味彩コンテスト

企業が新たな力を得ることを目的とした。15団体の協力を得て開催となった。本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとし

て、平成5年から開催されており、今年度は、昨年度の反省から、オープンキャンパスとは別日で開催する事となった。昨年同様、課題は、埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚(高校の部は国内産豚肉)を使用して、一般の部は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は462名(一般の部247名、高校の部215名)の応募であった。この中から、事前に第一次審査(レシピ審査)を経た一般の部17名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。学内外の審査委員によっ

て、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、一般の部では、分須智恵様の「夏野菜たっぷり!!ピリ辛肉みそお日様ソース」が、高校の部では、桐谷美衣様の「やわらかジュシー揚げないヘルシーレカッ」が選ばれた。これらの作品は五峯祭において、「彩り亭」のメニューとして販売された。

味彩コンテストの様子は、7月18日付けの埼玉新聞記事に掲載され、その意義や内容を広く埼玉県民の皆様へ紹介して頂いた。これからは味彩コンテストの発展と充実を、地域の健康づくりや地産地消に貢献できれば幸いである。

責任の重大さを再認識  
健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組  
廣瀬 優季



私は今回の校外実習で保育園の栄養士業務に携わらせていただきました。初日は厨房内の構造や機器類の確認、食器の配膳などを行いました。2日目から包丁を使わせてもらうことが増え、園児たちの年齢に合わせた切り方を学びました。例えば幼児に提供するものはさいの目切りですが、乳児にはみじん切りに近い切り方です。また、調理や盛り付けも少しづつが衛生面や安全面の考慮はもちろ

ん、いかに効率の良い動きができるかも重要だと感じました。アレルギーのある園児にはアレルギー除去食を提供しますが、命にかかわる事なのでより一層の配慮が必要だと感じました。提供する際には一目でわかるように違うトレーに乗せたり、口頭でも伝えたりすることを学びました。

調理以外では検収作業、発注作業、園児たちに向けての食育の指導など経験させていただきました。今回の実習を通して、食事を提供することは責任重大であることを改めて感じました。

施設実習を振り返って  
笑顔で接し児童と仲良く  
健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組  
西山 千春



私は9月12日から一週間、母校のさいたま市立指扇小学校で栄養教諭の教育実習を行いました。この実習を通して、大変多くのことを学ぶことができました。短い実習期間ながらも児童の名前を早く覚え、常に笑顔で接するように心がけたため、すぐに児童と打ち解けることができ、毎日充実した日々を送ることができました。

また、先生方の授業を見学させていただき、授業の進め方や授業内容での児童との接し方など、とても勉強になりました。研究授業では、小学校の先生方から事前に頂いたアドバイスを参考に、授業の進め方をまとめたノートを作成しました。児童が授業に積極的に参加してくれたので、極度に緊張することがありませんでした。

今回の教育実習では、とても貴重な経験をすることができました。実習で経験したことを活かせるように、今後とも日々努力していきたいと思っています。

# 学期向上 手帳への

## ◆高校夏季進学合宿

### 学習にも体力の必要性実感!

夏季休業中の恒例行事である夏季進学合宿が8月7日から8月10日の3泊4日の日程で実施された。場所は国立オリンピック記念青少年総合センターで、第3学年12名、第2学年14名、第1学年49名の合計75名が参加した。例年を上回る参加人数であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組み、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。



夏季進学合宿の様子

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。初めて参加した1年生の生徒達は、これまでの経験したことがない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要となることを実感できたようである。今年の1年生は例年以上に自習などに真剣に取り組む姿が印象的であった。2年生は学習に真剣に取り組む姿勢に助言を行うなど、確かな成長がみられた。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣に学習に取り組む姿勢は大変頼もしく、下級生のよい手本となった。下級生がそんな先輩の姿を見ることのできるのもこの合宿の良いところである。このような毎年の積み重ねが、夏季合宿の良き伝統として受け継がれていくのであろう。

### ◆夏季英語合宿

#### 中・高生が共に学ぶ 切磋琢磨し学力向上へ

夏休みの恒例となりつつある英語合宿に、今年初めて高校1年生も加わり、7月30日から8月1日の2泊3日の日程で実施された。場所は、嵐山にある国立女性教育会館で、高校生一貫部生含む27名、中学生47名の合計74名が参加した。最終日には、中学1年生は私学テスト、中学2、3年生と高校生はOGに臨んだ。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前90分2コマ、午後2コマ、夜は確認テストと朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となった。参加した生徒たちは90分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への

集中した取り組みができるようになり、確かな成長がみられた。今回の合宿の良いところは、特に中学生と高校生が同じプログラムの中で学習するので、取り組む姿勢で高校生のプライドと中学生のストレートな取り組む姿勢に互いに刺激があったようであり、今後の学校生活において切磋琢磨できる環境が正に出来上がった。

ユネスコ部では、平成26年度から継続してユニクロが主催する「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加しており、毎年本校の生徒保護者の協力ももちろん近隣の中学校や伊奈町民に多くの協力を得てきました。

### 服のチカラプロジェクト 子どもの古着集め難民支援 提供者にはクッキー贈呈



の古着を集めていることを周知し、五峯祭において回

今年も高等学校のユネスコ部員と中学校1年生がユニクロから派遣された講師の方から授業を受け、服の力とは何か、また世界中の難民問題と古着を回収して難民キャンプに届ける意義

とは何かを学ぶことが出来た。今年は、伊奈町が発行する回収紙に子ども服などの古着を持った来校者

取することを告知しました。ユネスコ部は毎年、子ども服の古着を集めるという活動と位置づけ、今後もこの活動を継続していきたいと考えています。皆さんにも協力していただければ幸いです。

中でも私は上映前からどう再現するのだろうかと思いに浸っていました。特にアラジンは昨年から公開のシーンに釘付けになりました。映画でも有名な「A whole new world」をバックに夜空を飛び回りますが、そのシーンが近づくと私は期待がより高まってくるのを感じました。実際に始めると、シンと静まった夜空を背景に静かに歌いだすアラジン。またそれに呼応するジャスミン。雄大な歌声に心地よく包まれていると、ゆっくりと、そして次第に大きく、舞台上をまさに縦横無尽に飛び回っていく魔法の絨毯の様に目を奪われてしまいました。それは映画以上の感動と言っても過言でないほどのものでした。

### 劇団四季「アラジン」鑑賞

#### 高等学校通信制課程 第3学年 長谷川唯

私達、通信制課程の生徒は7月16日に芸術鑑賞教室

として劇団四季のアラジンを観に行きました。特に私自身高校1年次にリトルマーメイド、2年次にライオンキングと2回劇団四季の舞台を鑑賞しており、

今回のアラジンもとても楽しみにしていました。特にアラジンは昨年から公開のシーンに釘付けになりました。映画でも有名な「A whole new world」をバックに夜空を飛び回りますが、そのシーンが近づくと私は期待がより高まってくるのを感じました。実際に始めると、シンと静まった夜空を背景に静かに歌いだすアラジン。またそれに呼応するジャスミン。雄大な歌声に心地よく包まれていると、ゆっくりと、そして次第に大きく、舞台上をまさに縦横無尽に飛び回っていく魔法の絨毯の様に目を奪われてしまいました。それは映画以上の感動と言っても過言でないほどのものでした。

その他のシーンもコマメに交えながらも目の離せない演技と演出ばかりでした。3時間という時間の中でプロの世界の凄さを感じることが出来、また大きな感動を得ることが出来た芸術鑑賞教室でした。

### クラブ活動報告

#### 陸上競技部 県新人大会で大活躍 全国制覇目指し日々精進!

陸上競技部は、7月29日から岡山県シテイライトスタジアムで開催された全国高等学校総合体育大会に出

場を果たした。今年度で7年連続での出場となった。最終日に行われた女子100mハードルでは、田中陽夏莉さんが準優勝を果たし、本校としては5年ぶりとなる全国高校総体入賞、過去最高の順位となった。

2017年山形インターハイを目指す新チームは、9月30日から行われた埼玉県新人陸上競技大会に出場した。

この結果、本校から女子100m、200m、1000mハードル、400mハードル、三段跳、走高跳、4×100mリレー、合計7種目で10月22日から行われる関東高等学校選抜新人

陸上競技選手権大会への出場を果たした。また、女子は学校対抗の部で3位入賞を果たした。総合優勝まで後一步という接戦だったが、チームとしては大躍進を果たすことができた。

チームとしての目標はあくまでも来年の山形インターハイである。そのためには、まだまだ課題も多く継続した努力が必要である。全国制覇を目指し日々精進していきたい。

場が決定し、チームライフル女子団体戦(荒井野乃華さん・小田嶋瀬利香さん・関根萌さん)が8位、姫野祐輝君がチームライフルで5位に入賞を果たしました。団体戦は8年連続の入賞となります。

また、8月に行われた国体関東ブロック兼全関東選手権大会では、7名入賞す

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎

### 射撃部

#### 20回目の国体出場果たす 東京五輪視野に中学生育成

#### 東京五輪視野に中学生育成

射撃部は、「全国大会優勝」を目標に日々練習に励んでいます。前期の成績としては、6月に行われた関東大会で、畠山丈司君がエアライフルで6位、長田学君が7位、新堂冬萌さんがチームピストルで7位、橋本与人君が8位に入賞しました。7月に広島県で行われた全国大会には7名の出

場が決定し、チームライフル女子団体戦(荒井野乃華さん・小田嶋瀬利香さん・関根萌さん)が8位、姫野祐輝君がチームライフルで5位に入賞を果たしました。団体戦は8年連続の入賞となります。

また、8月に行われた国体関東ブロック兼全関東選手権大会では、7名入賞す

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎



目覚ましい活躍をした陸上競技部

陸上競技部は、7月29日から岡山県シテイライトスタジアムで開催された全国高等学校総合体育大会に出

場を果たした。今年度で7年連続での出場となった。最終日に行われた女子100mハードルでは、田中陽夏莉さんが準優勝を果たし、本校としては5年ぶりとなる全国高校総体入賞、過去最高の順位となった。

2017年山形インターハイを目指す新チームは、9月30日から行われた埼玉県新人陸上競技大会に出場した。

この結果、本校から女子100m、200m、1000mハードル、400mハードル、三段跳、走高跳、4×100mリレー、合計7種目で10月22日から行われる関東高等学校選抜新人

陸上競技選手権大会への出場を果たした。また、女子は学校対抗の部で3位入賞を果たした。総合優勝まで後一步という接戦だったが、チームとしては大躍進を果たすことができた。

チームとしての目標はあくまでも来年の山形インターハイである。そのためには、まだまだ課題も多く継続した努力が必要である。全国制覇を目指し日々精進していきたい。

場が決定し、チームライフル女子団体戦(荒井野乃華さん・小田嶋瀬利香さん・関根萌さん)が8位、姫野祐輝君がチームライフルで5位に入賞を果たしました。団体戦は8年連続の入賞となります。

また、8月に行われた国体関東ブロック兼全関東選手権大会では、7名入賞す

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎



芸術鑑賞を終えて「海」玄関前にて

入賞者数が例年に比べて増えました。また、入賞者の半数は1、2年生ということもあり、今後の活躍が期待できます。今後は、国民体育大会、全日本中学生大会、新人戦、関東選抜大会と続きます。全日本中学生大会に向けて熱心に練習に取り組んでいます。全日本中学生大会は、10月15日から新潟県胎

# インドネシアから 教員・生徒が来校

## サッカーやパネル 制作で交流深める

9月2日(金)から6日(火)まで、インドネシアの中学校であるSekolah Islam Fitrada Al Fikri(セコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリ)から教員3名・生徒18名の計21名が本校で滞在し、本校生徒と様々な交流活動を行った。

今回の来校は一昨年に続き2度目の来校であり、本校とセコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリの交流が継続的になつてきている証左であろう。

緊張した表情でホストファミリーと顔合わせを行った生徒も表情はみな明るく、ホームステイが彼らにとって貴重な体験となったことを物語っていた。ホームステイを受け入れてくれた保護者や教員に感謝申し上げたい。

5日月曜には、国際学院埼玉短期大学にも訪問し、大学生や通信制課程の生徒とも交流を行った。本学院として、今回の受け入れを通して学んだことを生かし、本校のESDをさらに推進させていきたい。

## 深まった友情と団結心 22キロを歩き脱落者なし

### 強歩大会

今年も中学校1、2年生の恒例行事である強歩大会が、11月22日に実施された。この強歩大会は、体育的・協働的な学びを通じて、体力の向上をはかるとともに集団活動に必要な協調性を高めることを目的としている。

前日までは雨が降っていたが、当日は晴天の中、約22キロの道のりを1人も脱落することなく歩き通した。本校を出発してからは、原市駅で休憩、市民の森で昼食、りすの森を見学、NACK5スタジアムを見学、

水川神社を通り短期大学への道を進んだ。NACK5スタジアムでは、実際にプロ選手が使っているスタジアムの練習場や、普段は入ることができないロッカールームを見学することができ、プロの世界の舞台裏を見た喜びを感じている生徒が多かった。

また、サッカーグラウンドを観客席から見下ろし、その壮大さに圧倒された。約2万歩を歩き終えて到着した短期大学では、保護者の方が豚汁とフルーツポンチを作ってくれた。暖かい豚汁は、長い距離を歩いて疲れた体を癒してくれたようである。

主な交流内容としては、2日に歓迎会が開かれ、生徒代表などが挨拶を行った。歓迎会終了後には中庭でサッカーや「だるまさんがころんだ」など積極的にインドネシアの生徒に声かけを行っていた。交流することのできる本校生徒が確実に増えていることを示す一コマもあった。

2日目には、ユネスコ部の生徒とともにお互いの文化や国の特徴を示すパネル制作を行った。このパネルは最終日にプレゼンテーションが行われ、

学校を出発してから解散までの7時間で、体力の向上をはかっただけではなく、様々な場所を訪れた学びを得た。お互いに励ましあいながら、生徒全員が笑顔で歩いた経験は大きな財産になることだろう。

体育祭、五峯祭で深まった友情・団結力を更に強いのとするのができた。この友情・団結力を、残りの中学校生活に生かしてもらいたい。



来校したインドネシアの教員と生徒

平成28年度受け入れ留学生として、4月からドイツ人のリサン・ドムプロウスキさんが来校し、すでに昨年の9月から本校で学んでいる2年組のアンドレックスさん(写真)と共に本校生徒と学ぶことになった。4月に来校したりサンさんは1年組の一員として4月から来年の2月までの約10か月間を本校で過ごす予定だ。アドバンスコースの女子生徒とすぐに友達にかなり上達してきており、



NACK5 スタジアムにて

今年度も中高一貫部第2学年は、広島・京都・奈良へ3泊4日での修学旅行を行った。この修学旅行は、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚を持って世界遺産に関する学習を進めるとともに、日本の歴史について深く知ることや国際感覚を高めることを目的としている。



旭山動物園

2日目、早朝からセグウェイと気球の体験。早朝にも関わらず全員が出席し、いずれも初めての体験を楽しんでいた。朝



フェアウェルパーティーにて

海外研究は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを目標とし、授業の一環として行われる。

この修学旅行の4日間で、様々な場所を訪れ、歴史について学び、平和について考え、生活面においても集団行動の大切さなどを学んだ。そして何より、大切な仲間との最高の思い出を作る事ができた4日間になった。このたくさんの学びをこれからの生活に生かし、中学2年生としての残りの半年間をより充実したものにしてくれることを期待している。

## 留学生の紹介



さまざまな行事に参加  
半年で日本語も上達

緊張した表情でホストファミリーと顔合わせを行った生徒も表情はみな明るく、ホームステイが彼らにとって貴重な体験となったことを物語っていた。ホームステイを受け入れてくれた保護者や教員に感謝申し上げたい。

今年も中学校1、2年生の恒例行事である強歩大会が、11月22日に実施された。この強歩大会は、体育的・協働的な学びを通じて、体力の向上をはかるとともに集団活動に必要な協調性を高めることを目的としている。

また、サッカーグラウンドを観客席から見下ろし、その壮大さに圧倒された。約2万歩を歩き終えて到着した短期大学では、保護者の方が豚汁とフルーツポンチを作ってくれた。暖かい豚汁は、長い距離を歩いて疲れた体を癒してくれたようである。

また、サッカーグラウンドを観客席から見下ろし、その壮大さに圧倒された。約2万歩を歩き終えて到着した短期大学では、保護者の方が豚汁とフルーツポンチを作ってくれた。暖かい豚汁は、長い距離を歩いて疲れた体を癒してくれたようである。

今年度も中高一貫部第2学年は、広島・京都・奈良へ3泊4日での修学旅行を行った。この修学旅行は、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚を持って世界遺産に関する学習を進めるとともに、日本の歴史について深く知ることや国際感覚を高めることを目的としている。

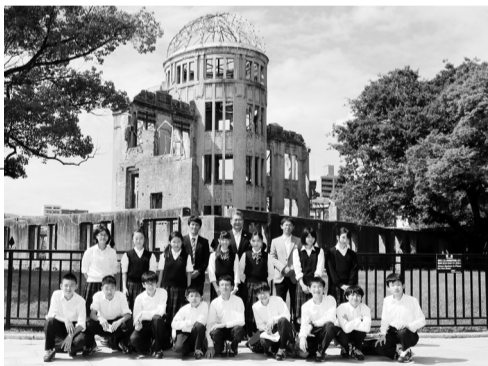
初日は、広島を訪れた。広島平和記念公園では、実際に見る原爆ドームや平和記念資料館の展示から、戦

争の悲惨さを強く感じ、言葉が失う場面も見られ、より一層平和への思いも強くなった。そして、その思い

を胸に、中学校全体で協力して作った千羽鶴を奉納した。宮島では海に浮かぶ鳥居の美しさに魅せられた。

最終日は奈良を訪れた。大仏の大きさや壮さに圧倒されるとともに、奈良を案内してくださった語り部の方から、「興福寺の五重塔が、現在のお金で言うと

## 広島・京都・奈良の 歴史に触れて感動



広島平和記念公園の原爆ドームの前で記念撮影

この修学旅行の4日間で、様々な場所を訪れ、歴史について学び、平和について考え、生活面においても集団行動の大切さなどを学んだ。そして何より、大切な仲間との最高の思い出を作る事ができた4日間になった。このたくさんの学びをこれからの生活に生かし、中学2年生としての残りの半年間をより充実したものにしてくれることを期待している。

この修学旅行の4日間で、様々な場所を訪れ、歴史について学び、平和について考え、生活面においても集団行動の大切さなどを学んだ。そして何より、大切な仲間との最高の思い出を作る事ができた4日間になった。このたくさんの学びをこれからの生活に生かし、中学2年生としての残りの半年間をより充実したものにしてくれることを期待している。

## 北海道の自然と 歴史にふれる

から豪華な海鮮丼を平らげ、昼には川下りやジャム作りといった体験を経て、午後は「北海道開拓の村」を見学しました。室町時代以降、次第に倭人が占拠する形で日本の一部となった北海道がいかにして明治、現在に発展を遂げて来たかを学びました。夜には名物のジンギスカンを食べ、小樽の夜景を楽しみました。

3日間を通じて、遠出ということで不安もありましたが、生徒たちが非常に協力をし、集団行動や北海道のことを学べる楽しい旅となりました。

アメリカシアトルでの研修を行った。ホームステイをはじめ、各研修で積極的な姿勢が見られ、現地の生活を学ぶ貴重な機会となった。語学研修コースは、バンクーバー島のナナイモでホームステイをしながらV.I.U.の語学研修プログラムに参加した。様々な体験を含んだ授業プログラムに対して積極的に取り組み、また、13日間お世話になったホストファミリーとも積極的に交流することができ、高い成果を挙げた。

## 海外研究

### 海外はアメリカ・カナダ、 国内は福島県へ研修旅行

第2学年の海外研修・語学研修・国内研修がそれぞれ無事に終了した。海外研究は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを目標とし、授業の一環として行われる。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、高校・小学校・デイケアセンター・シニアホームへの選択コース別訪問、カナダの自然やスポーツの体験、ア

れ無事に終了した。海外研究は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを目標とし、授業の一環として行われる。

この修学旅行の4日間で、様々な場所を訪れ、歴史について学び、平和について考え、生活面においても集団行動の大切さなどを学んだ。そして何より、大切な仲間との最高の思い出を作る事ができた4日間になった。このたくさんの学びをこれからの生活に生かし、中学2年生としての残りの半年間をより充実したものにしてくれることを期待している。

体育大会・体育祭

盛大に開催される

フェアプレーの精神で取り組む



中高の競技「台風之眼」

短期大学の体育大会は、「人づくりを科学する」一致団結(After Give Up)をテーマに5月20日に上尾運動公園体育館で実施した。

幼児保育科2年B組が圧倒！

短期大学の体育大会は、「人づくりを科学する」一致団結(After Give Up)をテーマに5月20日に上尾運動公園体育館で実施した。

競技の結果は、幼児保育科2年B組が他のクラスを圧倒したチームワークの

「We are in what We play」私たちは私たちがやることに誠実に取り組むます。のテーマのもと、各クラスが一致団結し、フェアプレー精神で競技を行った。

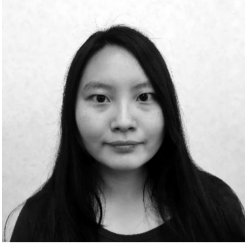
高校生のクラス対抗総合の部では、上級生を抑え1年C組が優勝を果たした。対抗の部で1年生が優勝したことは今回が初である。

また、今年から始めた最もまとまってきた応援、誠実に取り組んだクラスに贈る団結賞に、3年C組が選ばれた。今年度のテーマのどの生徒も誠実に競技に取り組んだ体育祭であった。

英語での交流に苦勞

オーストラリア研修実行委員長 健康栄養学科2年C組 泉澤はるか

オーストラリア研修では、オーストラリアの歴史や文化を学ぶだけでなく、世界遺産であるオペラハウスやブルーマウンテンズ、オーガニックレストランや動物園の視察、シドニー大学での受講、ホームステイなど、様々なことを経験することが出来ました。



その後、私たち健2Cは、オーガニック専門店に施設見学に行きました。とても

カナダ研修

おもてなしの心に感動

カナダ研修実行委員長 健康栄養学科2年C組 和佐田麻衣

多くのことを学び、経験した2週間のカナダ研修は、私にとって忘れられない思い出に残る研修となりました。

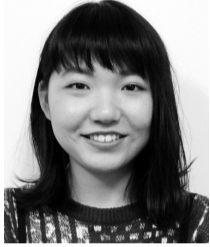
また、今回の初めは、6月2日、鴻巣市陸上競技場において開催された。今年「We are since



2週間の研修を通して、カナダの人の優しさとおもてなしの心にも感動しました。

学内研修 宮城県仙台市・松島

国内研修実行委員長 幼児保育科2年B組 小関 里菜



国内研修は、宮城県仙台市並びに松島を中心とした地域で実施しました。研修期間中に大雨が降った地域

もありましたが、各班とも計画したとおりに研修を進めることが出来ました。

いくことが困難でした。しかし、集合や点呼練習を重ねていく中で一人ひとりがしっかりとした自覚を持つことが出来るようになり

幼児保育科は各施設内の子どもへの配慮や工夫を、健康栄養学科は仙台の料理や食材について、それぞれ体験的に学びました。

短期大学

お客様も学生も“笑顔”



開幕セレモニーの一幕

11月5日(土)、6日(日)の両日、短期大学の五峯祭が開催された。今年度のテーマである「咲かせよう笑顔の花」Smile with your smileには、みんなが助け合っ

五峯祭



「みんなのオススメ」投票ボード

責任と意欲持つ学生五峯祭委員長 健康栄養学科2年A組 荒巻 夕夏

責任と意欲持つ学生五峯祭委員長 健康栄養学科2年A組 荒巻 夕夏

ク項目を決めて自己管理を徹底してきました。その成果もあって、静かだった校舎も準備期間に入ると何処に近づくかと思ってしまうほど完成間近でしっかりと目標の展示室を作り上げる事が出来ました。

映画や演劇、グルメと多彩

9月10日(土)・11日(日)の両日、第19回「五峯祭」が開催された。「ONESTEP 国際の未来へ」のテーマのもと、今年も2日間2000人を超える来場者を迎えることになった。

今年度の最優秀賞には3年G組「演劇『真夏の夜の夢』」が選ばれ、クラシックコンサートでは3年B組と1年A組が最優秀賞を同時受賞するなど、各クラスが精力的に取

り組んだ成果が随所に見られた。中学校では1年生が体験コーナー、2年生が演劇、3年生が自主制作映画を披露し、昨年に引き続き当

4年目となり、これまでの取り組みを引き継ぎながら、さらに各学年で工夫した新たな取り組みがみられた。

3学年合同の合唱を披露

第19回五峯祭は今年も2000人を超える来場者を迎え、大盛況のまま幕を閉じた。中学校の参加は今年



中学校第2学年では、オリジナルの劇が披露された。脚本や演出など生徒が主体的に計画し準備した。何度かリハーサルを行って改良を重ね、本番では各席

3学年とも今年度のテーマ「ONESTEP 国際の未来へ」の通り、未来につながる内容となった。来年度もこれまで築いてきた伝統とチャレンジ精神を受け継ぎ、新たな取り組みに挑戦することを期待している。

短大学友会活動報告

周囲との協力を大切に

学友会長 小島 英介

私は、昨年度の学友会の活動を通して、もっと様々なことに関わりたい、違う活動も行ってみたいと考え、会長に立候補しました。その際に、他の学友会のメンバーの協力や後押しがあったおかげで、会長になることができました。その時に、自分ひとりの力だけでは弱く、会長になることも困難だけれど、周りの人が協力してくれるからこそなれるのだと強く感じました。その為、周りの人の信頼に支えられるよう、またそのことを忘れないようにしていくには、もっと人との関わりを増やしていくことが大切だと思いました。そこで、今年度は学生、先

“ふれあい”をテーマに



「こども夏まつりひろば」での絵本の読み聞かせ

生、地域の方などの周りの人と心を通わせ合えるよう、学友会の活動テーマを「ふれあい」としました。具体的な活動としては、熊本地震の義捐金集めを行う際には、大学の入口の所で募金箱を持って立ち、学生や先生に呼びかけを行いました。今までに行ったことが無かったのでどうなるか心配でしたが、かなりの金額が集まり、無事に寄付することができました。皆さん、ありがとうございます。

学生、先生、地域の方が心通い合える行事を企画

学生会館の環境整備にも取り組み

学生だけでなく先生も参加し、学生と先生が協力して新聞紙の上に乗っているペーパーもありましたが、学長先生にもじゃんけんをして頂き、盛り上がりました。さらに、こども夏まつりひろばのボランティアでは、学友会が参加の呼びかけを行い、学生がカキ氷を作ったり、絵本の読み聞かせを行ったりするなど地域の方たちとのふれあいを行いました。その他に五峯祭では、同窓会コーナーの手伝いやバザーの運営などを行いました。特に、同窓会コーナーの会場となる学生会館の清掃に力を入れて行い、今まで以上に卒業生の先輩や地域の子どものふれあいが行えるスペースを作ることができました。今後は、両学科の学生の



さいたま市タウンミーティング

ふれあいを増やすために球技大会を行ったり、学生同士ふれあえる場所として学生会館をよりよい環境にできるように整備をしたりす



学友会総会の様子

るつもりです。学生会館の整備は、学友会だけで行うことは難しいので、先生方、各委員会と連携をし、さらに学生の意見を聞いて、学生にとって、誰でも利用できてリラックスできる空間

にしていきたいと思っています。卒業まで残り少ない日々ですが、私たちができることをやり残したことに後悔無いように様々なことに取り組んでいきたいです。

高校生徒会活動報告

3つの活動で成果

生徒会長 内田 和樹



五峯祭、募金活動、生徒会通信に全力

前期生徒会ではこれまで様々な活動を行ってきましたが、ここではその中でも3つの活動について報告します。1つ目は、五峯祭です。

生徒会として、私たちは正面玄関や校舎内の装飾を行いました。装飾を行う中で、五峯祭実行委員にうまく指示を出すことができず、人を動かすことの難しさを痛感しました。しかし、それでも五峯祭実行委員と協力

学校生活をさらに充実したものへ

してとても大きく立派な階段アートを作り上げることができました。この装飾が完成したとき、私はこれほどの達成感をいまだ味わったことがなく、生徒会長として五峯祭に関わることができて本当に良かったです。

また、今年度の新たな取り組みとして、五峯祭期間中に清掃ポスターを張り出しました。その結果、全体的にゴミがあまり落ちておらず、ポスターの効果があったのではないかと思います。

2つ目は、中学校の生徒会とJRC部と協力して赤

結を高めるためにクラスで作成したTシャツを来場者に投票してもらおう企画です。多くの来場者に投票してもらいました。

3つ目は、毎月1部発行する生徒会通信です。生徒会通信は、生徒会の活動報告や部活動の成績、その他学校行事などをまとめたものです。少しでも、生徒会の活動を知ってもらいたいという思いで発行しています。生徒の皆さんに読んでもらおうものなので、作るの大変ですが生徒会役員が協力して作っています。

11月には後期生徒会役員の選挙がありました。引き継ぎをしっかりと行い、後期生徒会本部役員が中心となり、学校をさらによいものにしていくように努力していききたいと思います。



赤い羽根共同募金の様子

パレスホテル総括料理長の毛塚氏指導

斬新な盛り付け、料理への愛情を学ぶ



講習会で学ぶことは将来の糧に

今年度のフランス料理講習会は講師に、パレスホテル大宮・洋食レストラン総括料理長の毛塚智之先生をお招きし、短大の健康栄養学科調理製菓専攻の学生39名と国際学院中学校高等学校

トッピングシエフの技とアイデアに驚嘆!

アイディアに驚嘆!



今回は3品を学ぶ

デモンストレーションでは、基本的な調理技術と最新の調理技術を融合させる調理工程になっており、多くのアイデアが盛り込まれ、芸術的で斬新な盛り付けで飾られていた。そのスタイルを見て毛塚先生の料理に込める愛情に何度も驚かされた。

頂点を極めたトッピングシエフの料理を見ることは、これから料理を学んでいく学生生徒にとっては将来の励みになり、今後の自身の可能性を感じさせてくれるものであった。

今回のフランス料理講習会で学んだことは、今後の学校生活での励みになるとともに将来の糧となる特別な経験であった。

フランス料理講習会を開催



講習会で学ぶことは将来の糧に

校の生徒111名が参加し、8月31日に国際学院中学校高等学校で実施された。毛塚先生は、平成26年度に「彩の国優秀技能者表彰」を授賞されるなど、業界内外から高い評価を得

て、様々な活躍をされている。今年度の講習会の内容は、「サーモンのサラダ仕立て」・「マッシュルームのクリームスープ」・「仔羊ウチモモ肉のロースト

# 「遊び・学び・触れ合い キッズスペース」

## 五峯祭同窓会コーナー開催



キッズスペースで楽しく遊ぶ子どもたち

### 卒業生が「プロのおもてなし」

#### 限定の料理提供、キッズコーナー大人気

11月5日と6日の両日、恒例の五峯祭が開催された。同窓会としては、本学院の学舎から巣立って各方面で活躍している卒業生がスペシャルコーナー「遊び・学び・触れ合いキッズスペース」を大会会場内に設け、プロフェッショナルスタッフのおもてなしをスローガンに取り組んだ。同窓会には、学科・専攻毎に3つの分科会があり、つくし会では、保育士が子育ての悩みや相談、あすなろ会では、「食育」の重要性や食事相談、けやき会では、調理・料理の相談など、いずれも本学院のベテラン

卒業生によるもので、先輩達のプロフェッショナルな活動は目を見張るほどであった。

昨年まで設けて好評だった「ベビーコーナー」、「プレイコーナー」、「キッズコーナー」、「おもちゃつり」に加え、つくし会では「つくしんぼパーティー」、を新たに開設し、大変盛況であった。担当した学友会の学生達にとって、先輩方の子どもたちとのコミュニケーションのとり方や誘導の仕方など、保育現場で実際に活用できる確かな知識や技術を目の当たりにし、有意義な経験になったものと思われる。また、五峯祭限定の料理提供として、あすなろ会の「ケークサレ」、けやき会の「ソースかつ丼」なども瞬く間に売り切れるほど好評であった。

担当した後援会の大越事務局長は「両日とも晴天に恵まれた五峯祭であったが、これからも、同窓会活動を通して母校である国際



### 卒業生の近況報告

シクスバイオリエンタルホテル勤務  
平成27年度健康栄養学科調理師専攻卒業

渡邊 里菜さん

### ただいま伊料理店で修業中

私は、現在東京都にあるイタリアンレストランで働いています。今年が1年目という年で、やることも学ぶこともたくさんあり1日が本当にあつという間に終わってしまっています。そんな中でもとてもやりがいを感じる瞬間があります。お店がオープンキッチンというところでお客さんと会話する機会があります。その時にお客様の笑顔を見られたり、「美味しかった」という言葉をいただいたり、「また来るね」と言っていたりその一言だけでとても嬉しくなり、「もっと美味しいものを作りたい」という自分自身のモチベーションにもなります。

### 「美味しいもの」に正解はない

「美味しいもの」に正解はなく難しいこと、大変なこともたくさんありますがその分とてもやりがいのある仕事だと実感しています。また、短期大学生の時に学んだ気持ちの良い挨拶や時間を守るということは、今社会に出てとても役に立っていると思います。基本的なことですがとても大切なこと、学生時代につかり身につけることが出来て良かったと思います。まだまだ社会人生活も始まったばかりですが、これからもたくさんのお客様に笑顔になつてもらえ、「美味しい」と言ってもらえるように頑張っていきたいと思っています。

学院の充実、発展のために尽力したいと考えている。本年度も、五峯祭における同窓会催事の開催にあたり、ご尽力いただいた役員、同窓生の活動協力員、在学生保護者で卒業生の方々、さらに会場設営にご協力く

り、ご尽力いただいた役員、同窓生の活動協力員、在学生保護者で卒業生の方々、さらに会場設営にご協力く

## ベストブック

### フランス料理に興味ある学生にお勧め

今回、学院新聞のベストブックの依頼を受けて、どのような内容の本が学生・生徒の皆さんに受け入れてもらえるか悩みました。そこで、調理師を目指す学生・生徒をはじめとする国際学院で学ぶ者にとって大切な食文化の話が良いのではないかと、日本人で初めて洋菓子店をフランスのパリに構えた、著者の千葉好男(別名フレデリック・チバ)氏が執筆した「お菓子とフランス料理の革命児」(鳳書院)

千葉好男(フレデリック・チバ)著  
「お菓子とフランス料理の革命児」(鳳書院)

料理の革命児(鳳書院)

理の革命児」を選びました。お菓子の歴史をたどると、アントナン・カ

ランド・キュイジーヌ(高級料理)を継承し、フランス料理を芸術の域にまで高めることに貢献しました。この本は著者がフランスに渡り、当時まだ数少ない日本人のパティシエとして修行を積み、日本人として初めてアンジェ

てフランス料理業界で不動の地位を築いたこと等に興味を抱き、執筆されたものである。現代のホテルなどで行われる宴会にピエスマンテ(いくつかの菓子を高く積み重ねて作るディスプレイ用の装飾菓子)を飾り、華やかな会場の雰

に照準を当てて描いており、大変読んで楽しい本と思います。内容としては、あまり硬くなく、また所々に絵や写真もちりばめられており、活字に慣れていない人にも読みやすい本だと思います。料理を志す人はもちろん、フランス料理に興味がある人にお勧めの一冊です。今のフランス料理に変化したターニングポイントと言っても過言ではないアント

ナン・カレムの業績を知ること、フランス料理の奥深さを認識し、より興味を抱く事だと思います。

ぜひ学生・生徒の皆さんに読んで欲しい一冊です。

## 「アントナンの生涯」

フランス料理の「奥深さ」を知る

レムという名前が必ず出てきます。アントナン・カレムは、かのオーギュスト・エスコフィエや多くの名著を残したユルバン・デュボア等よりも先に17世紀に誕生したグ

リック(店)をパリにオープンした中で、今のフランス料理、洋菓子界での礎を作ったアントナン・カレムの生い立ち(わずか10歳で親に捨てられ、努力に努力を重ね

囲気作りが、今も長く続いているのもアントナン・カレムの業績の一例といえます。フランス料理の美術は、いろいろありますが、著者は、彼の生涯の一番輝いた時期



### 国際学院後援会

## 伊奈キャンパスで総会開催

### 学生が学院の活動状況を説明



講演する渋谷治美・放送大学埼玉学習センター所長

平成28年度学校法人国際学院後援会の役員会は、5月30日、伊奈キャンパス本館5階の小講堂を会場に学生・生徒の保護者や賛助会員等の後援会役員57名が出席し、議題の審議等を行った。

会議の冒頭、大野誠名誉会長から後援会の諸活動並びに学校法人国際学院の教育研究活動への協力に対する謝辞があり、続いて「平成27年度事業報告・収支決算報告」、「平成28年度役員選出・事業計画・収支予算」についての審議が行わ

た。その後、経営力の強化と教育力の強化を2本柱とする「KGブランドの確立」と中学校高等学校の取組みである「教育の質向上プロジェクト」等、学校法人国際学院の今後の中長期計画の概要について、説明があった。さらに、短期大学並びに中学校高等学校の活動状況について、4名の学生・生徒からスライドを用いた発表があり、学生・生徒目線でわかりやすい発表に参加者から盛大な拍手が送られていた。

役員会に続いて、放送大学埼玉学習センター所長の渋谷治美・埼玉大学名誉教授(元埼玉大学副学長)から「学びの奨励」についても、何でも」と題して、ポール・ゴーギャンの絵を基に「人間とは何か」について示唆に富んだ講演があり、出席者は聞き入っていた。